

## 習熟度に応じた一人一人の学習を深めるための ICT 活用 「計算アプリを使用した学習量の確保」

子どもについて	所属・学年	特別支援学校・小学部1年
	障がい名等	聴覚障がい
	子どもの実態 (学习上又は生活上の困難さ等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>人工内耳、補聴器を装用し、音声、文字、指文字、手話等を活用しコミュニケーションを図りながら学習を進めている。習熟度に差があり、待つことが多い児童や理解することが精一杯の児童がいるため、集団で学習を深めることに課題がある。</li> <li>書字に慣れている段階で、書くことに多くの時間がかかり計算練習の量が確保しにくい。</li> </ul>
授業について  (教材・教具を使用した授業や指導場面)	教科名等	算数
	単元(題材)名	単元名「たし算とひき算」
	単元(題材)の概要	<p>(1)加減法の計算方法について理解した後、それぞれの端末の計算アプリを使い、自分のペースで学習を進める。</p> <p>(2)2人1組で課題に取り組み、お互いに相手の考えを確認したり、間違っているときは教え合ったりする。</p>
教材・教具支援機器について	教材・教具 支援機器	
	ねらい・工夫点	<p>〈ねらい〉 足し算や引き算の計算練習に数多く取り組み、正しくできるようにする。</p> <p>〈工夫点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットの操作に家庭で経験もあるため、スムーズに進められるか、使い方のルールを始めに確認するようにした。</li> <li>習熟度の違いもあるため、自分で難易度を選び、自分の力を確認しながら取り組めるアプリを選択した。</li> <li>1年生段階であるため、Surface のキーボードは取り外して使用した。</li> </ul>
	材料・作成方法等	<p>使用したアプリケーションソフト 「楽しい小学1年生算数無料学習アプリ」 (東京萬木ソフトトラスト株式会社)</p>
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書にある練習問題に取り組む際は、ノートに鉛筆で立式したり答えを書いたりするため、作業の時間がかかるが、計算アプリはすぐに問題が表示され回答するだけなので、思考する時間を多く取れた。</li> <li>書くことが苦手な児童は、苦手な部分がなくなるため、自らどんどん問題に向かう様子が見られた。</li> <li>その場で自ら回答を確認できることで、間違えた際には自ら復習していた。この部分は、ノートを使った学習よりも主体的に課題に向かい、学びを深めていた部分であった。</li> <li>友だちと一緒に問題に取り組む際は、友だちの回答を注意深く観察し、間違っている際は指摘をし、一緒に考える姿が見られた。1人で取り組む時よりも注意力を高めて課題に取り組んでいた。</li> </ul>